

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒一人ひとりの個性に応じて、その力を最大限に伸ばす、多様な学びを可能にする教育をめざします。

- 【礼儀をわきまえ「人」としての心を大切にする学校】⇒自他ともにかげがえのない存在であることを自覚し、感謝の心・思いやりの心を育みます。
- 【自主的に考え判断し失敗を恐れず努力し続ける生徒を育てる学校】⇒誠実に責任を持って行動する力を育みます。
- 【社会奉仕の精神の涵養を育む学校】⇒生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎を培い、社会の構成員としてともに生きる心を養います。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成と進路実現

(1) 学習指導要領を踏まえた創意工夫にもとづく教育活動の充実を図る。

- ア 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組む。
- イ 「観点別学習評価」による【計画⇒実践（指導）⇒評価⇒改善】により摂津高校の学びに応じた評価の『信頼性・妥当性』を高める。
- ウ 1人1台端末をはじめとするICTを効果的に取り入れ、一斉指導、個別学習及び協働学習を組み合わせる等により学びの深化を図る。
- エ 生涯にわたって探究を深める未来の創り手として「SDGs」を取り入れた探究活動を推進する。
- オ 「成年年齢18歳引き下げ」に伴い、生徒一人ひとりに社会で求められる資質・能力を育成する。

(2) 自主性・自立性を育成するキャリア教育の推進

- ア 3年間を見通した進路ガイダンス機能の充実を図る。
- イ 生徒の進路希望に応じたきめ細かな情報提供をおこなう。
- ウ 進路実現のための講習支援体制の充実（3年）を図る。
- エ 長期休業中等における質の高い集中講座を計画的・継続的に実施（1.2年）する。
- オ 姉妹校であるオーストラリア・クイーンズランド州バンダバーグのセントルークス校との交流等により外国語教育の充実を図る。
※難関私立大学合格者数（R03：93人/299人、R04：95人/303人、R05：80/229人）前年度率を上回る。
※学校教育自己診断「学校の進路指導は、進路選択・進路実現に役立っている」肯定的回答率（生徒：R03：83.4%、R04：83.7%、R05：86.5%）
⇒80%以上を維持、（保護者：R03：75.2%、R04：80.0%、R05：85.0%）⇒80%以上を維持

2 豊かな心、たくましい人間性の涵養と安全安心な魅力ある学校づくり

(1) 規範意識の醸成を図り規律ある安全安心な教育環境を確保する。

- ア あいさつ、時間厳守、身だしなみ等規範意識の醸成を図る。
- イ 交通安全マナーの向上を図る。
※遅刻総数の減少（R03：725回、R04：856回、R05：895回）→前年度減

(2) 安全で安心な学校生活の推進

- ア 人権尊重の教育の推進により生命や自他ともに大切にすることを育て人権侵害を許さない学校体制を確立する。
- イ 個々の生徒に寄り添ったきめ細かな支援による教育相談体制の充実を図る。
- ウ 防災・防犯、感染症等に対する対応を含む取組みの推進を図る。

(3) 生徒の自主的活動の支援及び生徒の可能性を伸ばす教育の実践

- ア 柔軟な学校行事・生徒会活動の充実を図る。
- イ 活発な部活動を通して人間力の向上をめざす。
- ウ 校内の環境整備及び設備等を充実することにより生徒の学習活動を活性化させる。

3 体育科設置校として、体育・スポーツ教育の推進をめざす。

(1) 体育科専門の授業を通して、トップアスリート・競技指導者等生涯を通してスポーツに関わる人材を育成する。

- ア 競技力の向上及び指導力の育成に積極的に取り組む。
- イ 体育の見方・考え方を働かせ、「する・見る・支える・知る」などのスポーツの多様な関わり方を自ら実践できる資質・能力を身に付ける。
- ウ スポーツ経験を生かし、生涯を通してスポーツの意義や価値を広めたり向上させたりすることができる人材を育成する。

(2) スポーツ拠点校として、地域スポーツの推進及び発展に寄与する。

- ア スポーツを通して地域交流を積極的に行い地域貢献に努める。

4 学校力の向上

(1) 学校・家庭・地域とのより一層の信頼関係の構築

(2) 「学び続ける」教職員の組織的・継続的な育成

(3) 業務の工夫、効率化により超過勤務時間縮減と生徒と向き合う時間の拡充

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R5年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成と進路実現	(1) 創意工夫にもとづく教育活動の充実	ア 「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざす。 ・「観点別学習状況の評価」の計画・実践（指導）・評価・改善の一連の活動を授業改善委員会を中心に信頼性と妥当性を高める。 イ 指導教諭を中心に、職員会議等において各教科からの実践発表（ICTの活用含む）を行い、学期に1回公開授業を行う。	ア ・学校教育自己診断（生徒）「授業で自分の意見をまとめたり発表する機会」85%以上を維持する【90.6%】 ・学校教育自己診断（教職員）「各教科において教材の工夫や評価の在り方について話し合う機会がある」85%以上を維持する。【89.3%】 イ ・定期的な研修の実施回数を1・2学期各3回、3学期1回以上を維持する。 ・公開授業を年間通して3回以上を維持する。	
	(2) ICTの効果的活用	ア 学習クラウドサービスを中心としたグループウェア各種ツールの活用率の一層の向上を図るとともに教職員間において好事例等の共有をおこない組織的な取組みを推進する。 イ 情報リテラシーの育成 「情報」の授業等で情報や情報技術適切かつ安全に活用していくための資質・能力を身に付けさせる。	ア ・学校教育自己診断（生徒）「学校は1人1台端末を効果的に活用している」90%を維持する【97.1%】 アイ・情報利活用診断評価独自アンケート（1年生徒）において、項目「スライドの作成・発表」において0.4ポイント【0.47】、「情報収集」において0.2ポイント【0.24】、1回めより2回めの数値を維持する。また、総得点（24項目×4点）1回めより2回めの数値を10ポイント以上を維持する。【10.3】 イ ・情報利活用診断評価独自アンケート（1年生徒）において、「コンピュータにおけるウイルス対策ソフトウェアの利用方法、OSやアプリケーションのアップデート等のセキュリティ対策の方法を理解し、その重要性を説明できる」【新】	
	(3) キャリア教育の推進	ガイダンス、進路講演会を組織的・計画的に実施する。 ア 生徒の関心度が高い大学の入試広報課を招き大学公募制入試説明会を校内実施し生徒のモチベーションを上げ、進路実現につなげる。 イ 3年生から1年生への「進路講演会」、卒業生から2年生への「卒業生進路講演会」を継続して実施し、同じ学校生活を送る（送った）先輩がどのように目標を決定し進路実現できたか具体的に知ることで進学意識を持たせ進路実現につなげる。 ウ 看護・医療系及び公務員志望において、面接等丁寧な個別指導を行っていく。 エ 夏期集中講座（1・2年：複数日）の計画的実施により学習習慣の定着及び進路実現に対する意識の向上を図る。	アイウ・学校教育自己診断（生徒・保護者）「学校の進路指導は進路選択・進路実現に役立っている」肯定的回答率生徒・保護者ともに80%以上【生徒86.5%、保護者85.0%】 ・難関私立大学合格者数を、前年度と同レベルに維持する。【80人/229人】 イウ・生徒の意見聴取【新】	
	(4) 外国語教育の充実	ア 夏期英検講習 計画的な実施により英語能力向上と実用英語検定取得への積極的な取組みを推進する。 イ 国際交流 姉妹校であるオーストラリア・クィーンズランド州バンダバーグのセントルークス校へのビデオレター配信を通じ、国際的な視野を広げ、言語スキルの向上と異文化理解の促進につなげる。 ウ 「グローバル体験プログラム」（大阪府実践英語体験活動推進事業）への参加を積極的に薦め、実践的な英語コミュニケーション力の育成を図り海外へ興味・関心を持ち、英語学習意欲を高める。	ア 事後アンケート「生徒満足度」数値90%以上をめざす。【80%】 ア 実用英語検定2級及び準2級の合格者数を維持する。【新】 イ 毎学期にビデオレターの配信等、継続した姉妹校の生徒たちとの交流が行なえたか。【新】 ウ 参加生徒の事後アンケートでの満足度90%以上をめざす。【新】	

2 人間性の涵養と安全安心な学校生活へ	<p>(1) すべての教育活動を通じて、規範意識の醸成、自らを律し他人を思いやる心を育てる</p>	<p>社会人としての素養を身に付けるべく、生徒指導の目的を理解させるとともに時間遵守、身だしなみ等、規範意識の醸成を図る。</p> <p>ア 遅刻・交通安全</p> <ul style="list-style-type: none"> 全学年の遅刻数を適宜生徒に情報発信し生徒及び教職員への意識付けを行う。 遅刻減少が交通安全につながることから、余裕をもって登校するよう年間を通じて生徒に指導する。 新1年生の比較的早い段階に外部講師を招き実演形式の「交通安全指導」を実施する。また、「交通安全指導週間」を年2回設け、自転車マナー順守の注意喚起を行い自転車事故の被害者・加害者にならないよう計画的な指導を全教職員で行う。 <p>イ 学校教育自己診断（生徒）「学校内外で規律を守り、モラルある行動をとっている」では高い数値だが、机上の数値のみとならないよう学校内外での必要なモラル、マナー向上のための啓発を積極的に行うとともに、迅速な情報共有を行い注意喚起していく。</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻数を前年度減にする。【895回】 登下校時の自転車による事故件数を0（ゼロ）にする。【11件】 地域の学校・青少年指導員等で構成する「青少年対策連絡会」や近隣地域での意見聴取 <p>アイ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断（生徒）「学校内外で規律を守り、モラルある行動をとっている」肯定的意見90%以上を維持する。【98.7%】 注意喚起後の生徒の改善の変容が見られたか。【新】 	
	<p>(2) 安全で安心な学校生活</p>	<p>ア 人権教育学習の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部講師を招き人権LHRを行い、より身近な問題であることを気づかせ意識させる。 <p>イ 情報モラルの育成</p> <p>学校生活全般において、情報社会で安全に生活するための危険回避の方法を理解させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全学年LHRにおいてSNS等での情報発信する際に必要な情報モラルについて指導する。 1年は、「情報」の授業をはじめ、HR等定期的に情報発信し【人よっての受け止め方の違い】や【多様な価値観】等に気づかせ情報社会における正しい判断、望ましい態度の育成を図る。 <p>ウ 教職員対象の救急講習会全員参加</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員全員が心肺蘇生法を身に付けいつでも実践できるよう準備する。 	<p>アイ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断（生徒）「個の違いを認め合う人権を尊重する態度を身に付けるように取り組んでいる」95%以上を維持する。【96.7%】 <p>アイ</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報モラル授業後のアンケート「多様な価値観や受け止め方を想定し適切に考え行動するという思いにつながった」肯定的意見90%以上を維持する。【93.3%】 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員の救急講習会参加100%を維持する。【100%】 	
	<p>(3) 自主的活動の支援</p>	<p>ア 柔軟な学校行事と生徒会活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動を推進し、学校行事を更に活性化させ生徒の自主的活動を促進する 学校紹介ムービーを作成し、SNS上に定期的に情報発信する。 学校HP・説明会等広く情報発信し広報活動につなげる。 <p>イ 部活動を通して人間力向上をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が部活動において積極的な自主的活動ができるよう支援する。 <p>ウ 図書室の活用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題発見・解決の能力の基礎を身に付けることに加え、創造力や表現力を豊かにするため教科指導・総合探究・調べ学習に積極的に活用する。 昼休み・放課後の利活用を増やす。 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断（生徒）「学校の行事に積極的に取り組んでいる」肯定的意見90%以上を維持する。【94.6%】 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 入部率80%を維持する。【】【新】 学校教育自己診断（生徒）「部活動等に積極的に取り組んでいる。」肯定的意見80%以上を維持する。【81.7%】 各部活動で前年度以上の成績をめざす。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書室の利活用頻度、昨年度以上【52回】 開館頻度を増やすことができたか。【新】 	

<p>3 体育・スポーツ教育の推進</p>	<p>(1) 体育科専門の授業を通しての人材育成</p> <p>(2) スポーツ拠点校として地域スポーツの推進を図る。</p>	<p>ア 「スーパーインストラクター招へい事業」の活用により、トップアスリートやコーチによる講演等を計画的に実施し、生徒のモチベーション及びスキルの向上につなげる。</p> <p>イ 大学関係者による講義等を実施しスポーツの多様な関わり方を多方面から学ぶ機会をつくとともに将来の進路決定に役立てる。</p> <p>ア ・近隣学校等の体育的行事に参画し企画・運営等を行い、指導力の育成を図る。 ・中学校の部活動支援。 ・地域のスポーツクラブチームの支援。 ・近隣中学校運動部を招き『SETTSU CUP』を開催。本校体育科の魅力発信、地域スポーツの推進・発展に努める。</p>	<p>ア ・体育科独自アンケート（生徒）「スポーツへの多様な関わり方の興味・関心が高まった」肯定意見 80%以上をめざす。【92.5%】</p> <p>イ ・授業等、大学教授による高大連携事業の継続が昨年度同等程度に行なえたか。【4回】</p> <p>ア ・近隣学校等の体育的行事参加者の「満足感が得られたかどうか」肯定的意見 80%以上【新】 ・部活動支援した中学校の部活動数延べ 100 部以上を維持する【134 部】 ・『SETTSU CUP』の開催部活動を 3 運動部以上を維持する【3 運動部】</p>	
<p>4 学校力の向上</p>	<p>(1) 学校・地域中学校との連携</p> <p>(2) 教職員の組織的・継続的な育成を図る。</p> <p>(3) 長時間労働の削減</p>	<p>ア 中学校訪問、学校説明会及び出前授業等の継続実施。 ・本校の魅力を積極的に発信するとともに、丁寧な情報提供等を行うなど一層の充実を図る。</p> <p>教職員の資質能力の向上</p> <p>ア 人権教育/教育相談 ・研修等を通じて、いじめ、ヤングケアラー、合理的配慮等正しく理解するとともに相互に資質を高め合う。 ・あらゆる機会を活用し、教職員に求められる基礎的素養である人権意識を高め、人権問題を正しく理解するとともに差別を許さない姿勢を身に付ける。</p> <p>イ 綱紀保持の遵守等、教育公務員としての自覚と責任が一層高まるよう取り組む。 ・教職員一人ひとりが個人情報の取り扱う者として責任の重さを改めて強く意識するよう取り組む。</p> <p>ア 全校一斉定時退庁日とノークラブデー等部活動方針の遵守・徹底を図る。</p> <p>イ 学年、教科等での教材等の共有化。</p>	<p>ア・出張出前授業、学校説明会等を継続して実施できたか。</p> <p>ア・学校教育自己診断（教員）「人権尊重に関する様々な課題等、教職員が話し合う機会がある」肯定的意見 80%以上【59.3%】 ・教育活動全般において、「体罰や各ハラスメントの防止をはじめ、人権尊重の姿勢にもとづいた指導が行われている」肯定的意見 80%以上を維持する。【76.4%】 ・学校教育自己診断（教員）「生徒が相談しやすい環境をつくるよう努めている」肯定的意見 85%以上を維持する【88.7%】</p> <p>イ 全教職員対象に令和5年12月改訂の「個人情報の適正管理のために」にあるセルフチェックシートを用いて自己点検を定期的に行う。【新】</p> <p>ア・全校一斉定時退庁日に生徒及び教職員が遵守できたか。 ・各部署で部活動方針の遵守ができたか。</p> <p>イ・教科間での教材の共有化が継続しておこなえているか。</p>	